

# 明るい将来に向けて「地方創生伴走支援」



国が進める「地方創生伴走支援制度」の取り組みが本町で始まりました。「地方創生支援官」として3人1組で「伴走支援チーム」を編成し、町の課題解決をサポートします。

同制度は、各府省庁の本省職員が、これまでの職務経験を生かして副業的に地方創生に携わり、課題を抱える中小規模の自治体に寄り添った「伴走支援」を実施することを目的に本年度から始まりました。任期は1年間で、全国で60の市町村、県内では、本町と知名町、鹿屋市が選ばれ、支援を受けます。

5月1日は、役場で町商工会や漁協、農協などの町内5団体が支援官らと意見交換を行いました。

若年層の流出や一次産業の担い手不足、所得の安定、赤潮対策など町の将来に向けた課題が上げられ、今後の支援の方向性などを検討しました。

今後は、支援官の平林孝之課長と新保晴久副長、高林恭大係長と毎週オンライン会議を開くほか、本町を訪問し、地方創生を支援していきます。

## 本町の地方創生支援官3人のコメント

「平林孝之課長」

経済産業省 商務・サービスグループ 消費・流通政策課長

※元鹿児島県商工労働水産部長



県庁出向時の経験や人脈、経産省で培った国内外での経験やノウハウすべてを長島町の課題解決のためにフル活用します。  
美しい長島町の持続的な成長に向けてみなさんと一緒に仕事ができることを楽しみにしております。

「新保晴久副長」

会計検査院 第2局 防衛検査第1課 副長

長島町の課題解決に向けてしっかりと伴走支援に取り組みたいと思います。よろしくお願いします。  
黒之瀬戸大橋を渡ってからの道沿いの花壇の美しさにとっても感動しました。手入れは町のかたがされていると聞き更にびっくりしました。



「高林恭大係長」

法務省 法務省大臣官房人事課係長



支援官になるに当たり、これまでに関わりの深くない自治体を希望しましたので、フラットな目線で支援活動ができと思っています。長島町はブリやジャガイモが名産と伺っています。町をより活性化できるよう支援したいと思いますのでよろしくお願いします。